先進的な取り組みで注目を集め、全国から視察が訪れる最先端の林業が香美市にあります

集約化して稼げる森に！ 進化する林業の現場

― 香美森林組合が目指す森の未来 ―

現代の林業は体力まかせの力仕事ではない

林業というと、どんなイメージを持つだろうか。体力と腕っぷしで勝負する男の世界と考える方も多いかもしれない。

しかし、現代の林業の姿は必ずしもそうではない。安全と効率を突き詰めた結果、機械化が進み、システマティックに洗練された林業の現場が展開されているのだ。

香北町有川に、香美森林組合が間伐作業を行う現場がある。山の奥へと車を走らせると、やがて未舗装の作業道へと変わる。そこからさらに進むこと約15分。積み重ねられた材木と、巨大な重機を巧みに操る若者の姿があった。

チームで材木を切り出すプロフェッショナルの仕事

写真の手前で丸太をつかんでいるのが『プロセッサー』という重機。切り出された木をつかみ、枝をなぎ払いながら一定の寸法に切り分ける。さらに積み込みまで行える優れものだ。

そして写真奥に見えるのが『スイングヤーダ』。伐採の現場まで架線を張り、ワイヤーを巻き上げて丸太を搬出することができる。この重機がない時代には、伐採現場から作業道までの搬出にかかる労力が非常に大きいため、切り捨て間伐とすることが多々あった。スイングヤーダを使用した現場では、切り出した木をほぼ残らず出荷し、資源として活用できるため、山主にお金を還元することにもつながっている。

「山があってもお金にはならない」と言われて久しい。しかし、効率と合理性を考え抜いた工夫と努力は、林業の世界に大きなコストダウンをもたらし、山に活力を与えている。

香美森林組合で間伐や皆伐を担う林産班は6班あり、1班4人体制。その内1人は経験の浅い若手で、作業をしながら一人前に育てていく。

チェーンソーによる伐採を担当する作業員が、山の斜面を下から上へと真っ直ぐのラインで間伐していく。これを列状間伐といい、架線による搬出がしやすいのはもとより、他の立木を傷つけにくいという利点があるという。切り倒した木にワイヤーをくくりつけ、スイングヤーダが作業道まで引き上げる。引き上げられた木はプロセッサーにより切り分けられ、あっという間に立派な丸太となった。この間わずか10分程度。往年と比べると圧倒的な作業スピードだ。無線などのやり取りで安全を確かめながら、作業は着実に進んでいく。経験豊かなプロフェッショナルたちの仕事なのだと感じた。

そもそも、山にどのような路網を描けば、安全で効率的な作業道を引くことができるか。我々素人にとっては、全く考えが及ばないプロの仕事。香美市の林業を牽引しているのは、山の奥で黙々と汗を流す彼ら現場の力に他ならない。